

グラフィア

癒着胎盤と子宮内膜癌の経膈超音波画像

石原 楷輔 第二病院産婦人科

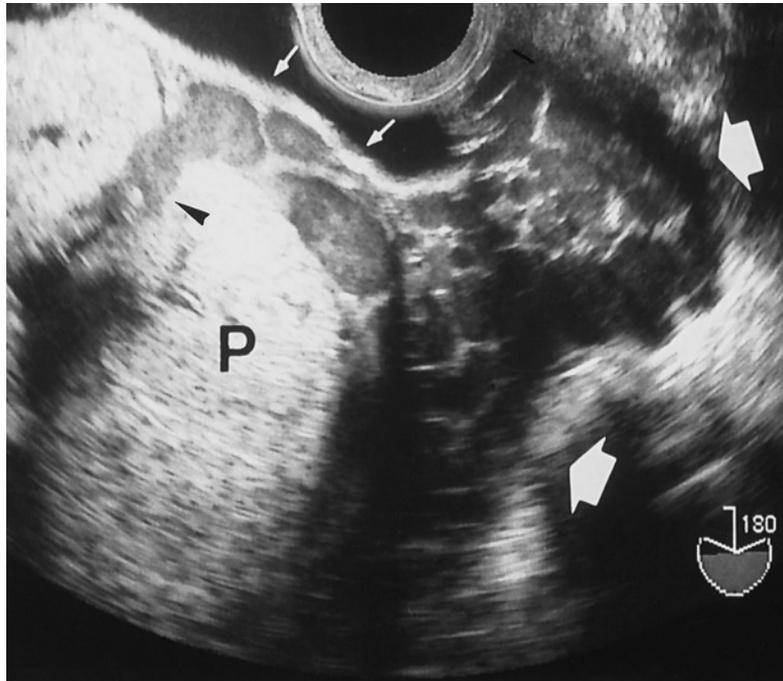


写真1 帝王切開の既往がある癒着前置胎盤の超音波画像。胎盤実質の間隙()と turbulent blood flow および膀胱後方 頸管に著明な静脈血管叢(太い)が認められた。術中の出血量 3500 ml であった。



写真2 妊娠 35 週における初産婦の癒着前置胎盤像。胎盤実質(P)の間隙()には turbulent blood flow を認め、胎盤後方の著明なスポンジ様エコー(太い)に連結、総出血量は 5400 ml で子宮摘出となった。



写真3 A 28歳，未経産婦．不正出血を主訴に来院．経膈超音波検査で子宮腔内に隆起状echoを認めたため，カラードブラ法で観察．筋層から隆起状領域へ繋がる豊富な血流像（ ）が検出され，癌腫が疑われた．



写真3 B sonohysterographyによる三次元画像で子宮内膜表面は乳頭状で凹凸不整の隆起状病変と判明，癌腫が強く疑われた．組織診で子宮内膜癌と診断．われわれが行う子宮腔内病変の三次元画像による描写はカラードブラ法とともに診断に有用．